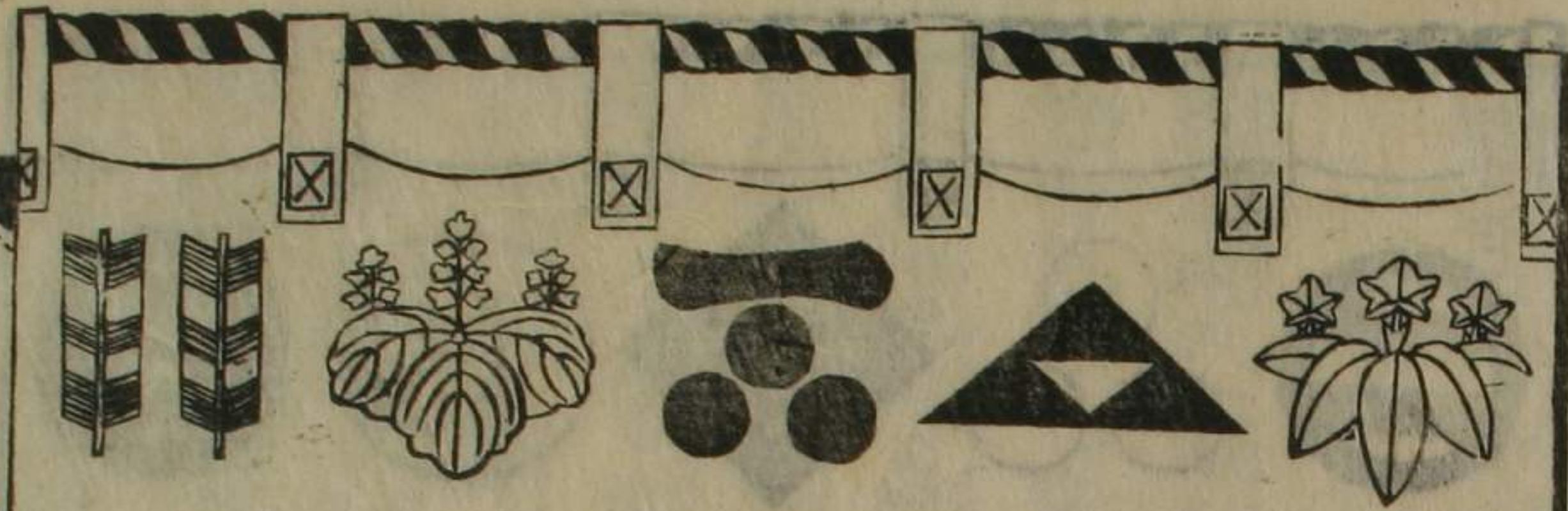


へ遠 13
2208
巻 5



星月夜頭晦録初編卷之五

目次

坂額女謀斗寄牛の大軍を疲勞せしむ

坂額御前浅利と遠藤孫次清就三騎合戦の圖

城資盛寄牛の陳へ残書を贈圖

星月夜初編卷之五

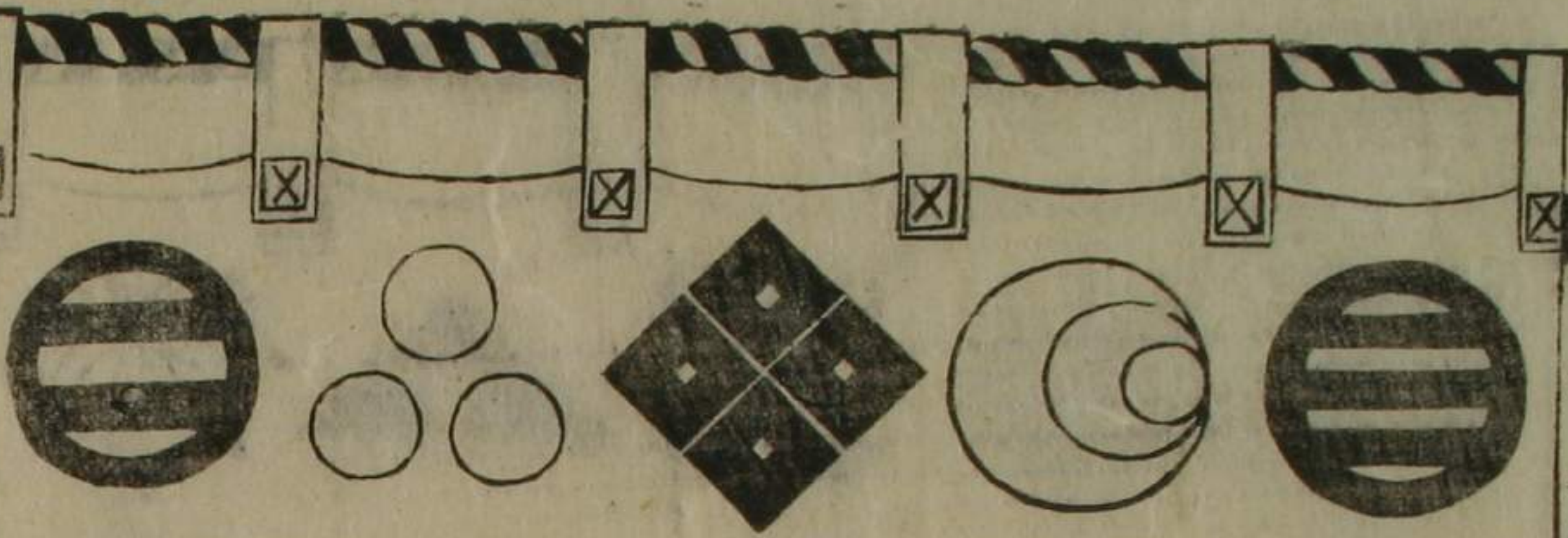
盛綱入道丰分と定て鳥坂の城を抜

佐系盛綱入道城中の斗策を察する圖

美遠坂額女を中賜鎌倉静謐

鳥坂城夜軍の圖

坂額女浅利美遠と嫁を圖



星月夜願晦録初編卷之五

坂額女謀計寄手の大軍を疲労せむ

鳥坂城の寄手坂額女が剛勇の働又新愼まれ大に怒り鬼神あもせよ。只一人の敵ありゆゆゆ彼を討ちつるものなりと追々弛向て幾ひ。さよと申す早業長刀又羅排の是近きありの傷を受ざるはく。のど。てんえり爰は甲州新羅源氏の末裔武田の一族に浅利冠者市美遠。催使たるは近國のるを弛到り盛綱又加る在りが坂家後友を唐論り。春見ゆると粹まきく童形のどくはれ大に進退並にを術に達し。勇戦の粹中く軍の所為を味方色を怪しめたり。奴等何せ実否を。同くは管討るとも美遠奇異の曲者なりと郎亦又向ひ當國又加夜の。勇士のんとあはれは女御我と名をる美遠が郎従の内は當國の老。



のいふが。えの彼者も男子ありゆのど敵の資益の視又城九郎資
 圓が娘坂家女と号し大カサ双兵道は通曉し。武畧又兄は場は仕事なれ
 めりふ不猛然と形容の醜と。誓婿を求る者あり。寡婦あり在り。是達
 俊と男女は限らざ。人々形貌を以てむと。彼中婦人の兵あり。頃
 の憂あり。いふ女はむと。彼女が勅に大丈夫の勇士は社を猛
 武を好勇めり。近き木曾茂仲の妻巴女又の匠我切
 彼が勇敢を慕慕をいふありと生捕妻よりあつんと。汝亦渠が
 余黨を支へ防り。これより彼を擒とせんと。即亦真を覚し。
 幾く討ち格別妻をえと。物好する主人つると。よす笑はせたり。
 ふゆどの。むらうの勇猛の女は仕損らぬ時と。大なる耻辱を結く
 ときあつと。いと疎と。女あもの。是幾場と。味方を損らば

勇士は同じ。負るも耻ぢ。軍中は死する勇士の習ひ。死も厭は。我は
 猪けと云。槍馬を飛進。進く。郎後。是非。打出。坂額女。猛威を震ふ。
 妻勢の中。近。人。馬の。地。附。と。飛。大勢
 既。城兵。引。退。下。橋。を。唯。入。の。武者。を。討。ん。と。大勢
 城外。の。敵。兵。糧。唄。を。引。と。唯。入。の。武者。を。討。ん。と。大勢
 驚。ひ。の。利。上。市。美。達。排。威。の。禮。又。金。他。の。方。刀。を。第。一。と。曹。由
 向。知。又。信。濃。國。の。住。人。藤。沢。八。郎。信。祝。同。く。馬。を。並。牛。一。手。柄。仕。務
 くれ。討。魚。と。と。市。美。達。排。威。の。禮。又。金。他。の。方。刀。を。第。一。と。曹。由
 の。一。騎。弁。の。務。負。せ。と。形。は。我。又。物。一。更。と。市。美。達。排。威。の。禮。又。金。他。の。方。刀。を。第。一。と。曹。由
 遠。一。人。の。高。名。は。我。又。物。一。更。と。市。美。達。排。威。の。禮。又。金。他。の。方。刀。を。第。一。と。曹。由



坂額前

藤
 澤清親三騎合戦の圖
 浅利義遠

星月夜力編卷之五



星月夜力編卷之五

高平寺とて争う見物せと争ふ内清親が郎水熊代佐平本と
名をかく坂額女は打てぬ女は元来川入んかや銭を好まされど大勢
は取すれ急ぐり羨むる浅利藤沢の争ひはるや見と。此は謀策と備行。
幸ふことある如く佐平を抽きぬりし長刀小柄よめ込込く佐平方が打
ち刀吹弓手又突を長刀取直し搦首ぬちう打りては忽ち刀吹ち
落され頭ぬ所と細身は坂額女右の手はさうのべ佐平方が弱腰を忍
捕え報の前輪よりお長刀持ちぬり左は佐平方を抱へ右の手は短刀
を抜首あつと搦落し。死骸を投擧げ首を奪取の中へ投げれば是を法
勢もすすた驚恐と近有りありは藤沢と市と争ふ内は即赤を討
とや念ふもい家其の仇を報せんと。市は構む馳出とる茂速申同く赤
出と如く坂額女声うけ方は一騎打つ勝負を好む小覚ゆる乱軍の中

あつた血とくとも相手を娘へば非は我こそ資益か叔母坂額女
甥子の為は戰場は屍を肆えんとおちぢき働かぬらん免ぬ人。
尋常の勝負を争ひぬり法勢をば二騎お並ぶかり自ら首一。
川両所へおのそんと呼りりる。茂速清親女は声あつた。二人向え申赤弱の
まへをひた。茂速一過は生捕んとめしむ若沢も即赤の仇を討んと
お怒るも茂速女かこの人を恨む。款を女く。わく二人向え申諸士の面前
もわく。これごとく互は目を款する。一人は仁とむまのぶ。もう一人は我
奴を文へむま向ひ生捕ん於て兩人もも社へむまむまを放りて止む
ゆきと色よ肩に味方の兵を下むをり。藤忽めぬとるんと。遂は藤は
後へむま茂速清親兩人馬一匹をす。天魔の化ける女ありた。
生捕ぬハ三響と弓矢もち刀も持びぬ。左右よりいよむ坂額女

を許く。又さういふ先一。昨日諸軍を休め敵の挙動を見かねて。想はく
 我城の軍討つて。引退す。急は我を好む。その城兵は約二千
 る。後々次は減る。増え。依り始の勢強く。後の弱く。兵
 糧矢種沢山。その限りあり。我由城を固く。是夜印を安ん
 ぐ。これより早く。勝敗を交せん。と云ふ所。以てその軍を討つ。敵
 一人は味方三人をみて。未だ危し。さういふ。計策を。敗
 軍より。その身を伺んと。今日のごと。益の損亡を。引出
 せり。以上味方一人。あつても討つ。恥辱を。累る。期有。追及
 くと軍を。せし。急な。渡。れば。仕。無念。又。隨。守。居
 たり。城中。小方郎。資盛。今日。叔母の。斗。畧。勇。戦。又。さ。勝。利。を。得。た
 ぶ。と。限。り。あ。つ。て。女。帥。の。智。勇。凡。人。さ。び。と。感。伏。を。お。お。初。度。の

軍は利を失ひ。これ。怨を。含。内。日。二。の。合。戦。せ。ん。と。云。ふ。防。禦。の。用。を
 急。す。と。その。印。を。持。つ。れ。と。一。向。音。を。せ。ど。お。夜。中。油。印。を。見。さ。す。
 押。あ。ん。と。量。る。や。と。置。夜。蔵。く。お。待。三。日。さ。あ。未。だ。と。特。此
 乃。の。戦。は。後。し。も。の。諸。勢。笑。ひ。く。坂。額。女。の。は。亦。嘲。る。さ。あ。あ
 幸。ハ。大。軍。あ。つ。由。名。の。士。餘。多。の。一。戦。又。勝。利。を。と。す。何。を。思。ふ。と。あ
 翌。日。早。く。あ。あ。味。方。の。言。ひ。を。な。れ。負。く。怒。を。能。感。む。乃。の。難。美。の
 敵。と。知。べ。し。味。方。の。隨。分。字。ふ。あ。つ。と。疎。る。友。軍。互。又。見。合。居。と。十。日。斗
 争。す。毎。日。攻。ん。と。を。号。め。ど。入。道。堅。く。制。し。て。攻。ま。せ。ど。さ。う。と。盛。綱。を。始。め
 諸。軍。軍。号。を。さ。す。又。資。盛。が。郎。本。死。退。屈。の。名。を。咎。お。せ。し。と。敵。陳。へ。夜
 討。を。お。け。ん。と。十。合。せ。小。方。郎。不。効。し。資。盛。叔。母。又。名。を。殺。す。坂。額。女。の
 名。を。さ。す。と。利。の。け。し。ひ。あ。る。不。素。を。討。つ。と。夜。討。の。德。之。今



三
月
三
日
不
論
宅
主
等
均

五

あまの隙はその故ゆんと思せり。殊は先日以來合戦を息絶し休んせし
 在るれば防の用を去るべくも。用章強引の云の事なれ。左松の如く夜討
 せば却て當城を破るる端とするべし。唯敵の勢もなかりき。勢利を
 量るべしと制しり。今度一味計れ浪人夜討を好む。技藝よく敵もあ
 半の隙を破る。安閑と守居るもあまの退くは。その内あまの勢
 にも加り。味方の居るが負へ。勢も負るも命を惜んて入り。此の如
 死にき身は竹の思ふあらん。半と防禦の儼なり。せし一夜討せし
 味方の勇気折れ。後度の戦ひ遂にやめんと強く勅るも。坂頼女由
 色を制せば。却て衰を生せんとほく。工夫し左松の如く。手平な
 代せん。少しも夜討せざる。斗畧を授ぐ。敵を苦しめ。味を極よ
 む。トす。一々明晩夜討せん。今宵あまの戦書を送り。中々よく

中々よく定め。早く出陣。合戦の用意をば。おそれん。けし。せし。は
 又使を送り。明日と約束し。夜不す。討入る。後日。天は。素は
 堪ぐる。あまの。能休。是。ゆめ。ん。だ。れ。勢。利。を。得。ん。と。教。る。は。法
 勢大。又。此。女。元。帥。の。奇。計。ゆ。つ。も。事。こ。の。教。の。ど。く。先。戦。書。を。送。り。士。卒
 又。持。た。ま。る。一。盛。綱。入。道。の。本。陳。へ。出。る。故。見。さ。ふ。長。義。城。を。い。こ。と。も
 運。を。用。い。べ。は。ゆ。め。の。法。軍。の。勢。あ。る。内。は。有。ま。の。勢。敗。を。受。せ。ん。と。ほ。く
 明日城辺に出張し。我三千の兵を拂く。討出。軍。を。止。め。さ。す。死。軍。し
 城中の死生存亡。明日と覚悟。宛。せ。い。返。言。ひ。用。と。致。え。ん。と。出。面
 くる。へ。盛。綱。義。士。を。集。め。討。強。さ。す。ゆ。め。も。勇。気。收。む。る。敵。の。不。勢
 打出し。戦んとする。へ。承。知。の。返。答。し。と。せ。ゆ。め。盛。綱。中。の。如。く。う。へ
 思ひ。く。も。先。づ。ゆ。め。の。勢。負。を。送。り。と。返。言。し。その。後。法。士。又。向。ひ

兵の謀めぐる。要害を構へ筑城する。彼の容易討出戦らん。又十日廿日は兵糧の尽る公令。城外は一時務員をせんとす。不慮此上あり。然れども。敵の用意をたつとる。友返をみる。唯、用をさす。ひさと戦とのうらむ。示し。五月廿一日早天。一万余の軍勢。敵城を去り。十町程は後を主定場。此地を前より。三股は押し。盛綱は中隊隊を禁め。蕭忽の軍。兵は推し。敵退く。追え。これと示し。敵の討出。今や。待たる。辰の刻。は後を主。午の刻。は待たる。敵一人も出さ。依り。危き存候。出。城辺を伺し。唯。今打。と。え。舞る。と。持。扱。ひ。我。軍。強。動。の。振。子。之。と。云。也。さ。る。夜。へ。く。の。さ。ら。う。が。且。油。改。ま。る。と。一。万。餘。人。を。異。を。凌。死。堅。密。を。候。ぐ。れ。と。申。出。ら。る。と。ま。あ。ふ。た。は。怒。り。敵。の。不。為。と。不。届。る。れ。押。あ。く。我。を。欺。し。罪。を。

攻亡とて。と。圍。を。盛。綱。入。す。我。士。を。皆。め。是。敵。の。謀。め。味。方。又。十。分。の。怒。り。を。あ。ら。せ。り。あ。討。え。と。い。ふ。と。ん。縦。欺。る。と。も。味。方。は。換。り。押。あ。か。び。と。謀。又。陷。る。と。制。し。暫。く。伺。ひ。居。る。と。申。の。お。の。す。又。至。り。城。出。る。士。卒。書。翰。を。持。來。り。茶。を。捧。ぐ。盛。綱。披。見。る。今。日。有。事。の。合。戦。を。遂。ん。と。送。る。の。知。承。知。ら。る。出。張。一。万。餘。の。兵。に。早。速。死。士。死。生。を。究。め。ば。知。一。族。の。内。又。暫。時。の。戦。死。を。不。言。中。志。出。張。り。惣。務。局。志。の。上。あり。と。出。張。と。さ。る。友。返。の。見。見。を。加。へ。左。右。不。カ。よ。い。ん。と。時。刻。延。び。い。う。の。知。今。日。合。戦。又。一。夜。の。さ。と。い。ふ。今日。ハ。申。の。刻。由。半。は。近。く。務。員。を。交。さ。る。間。中。は。憐。明。日。に。延。び。今。宵。完。期。の。暇。を。申。は。明。日。ハ。早。く。出。張。と。今日。の。禮。謝。と。夫。と。由。用。さ。り。て。是。非。夜。入。り。中。戦。え。と。あ。る。と。い。ふ。只。今。出。

張汝と書きて書し。盛綱法師も忠告をせしむるに、
 夜軍をもつてとて、左の明日と云ふは、合兵の
 上親族一統するは、昨日戦書を送るに、
 昨夜軍の危し。明日より汝敵の根子を伺ふに、
 返答し。味方の熱軍を止め、本陣を退ける。汝勢も今日終日、
 見し汝も念ふに、自ら怒り止むる城中、
 を欺き、後日、我ひに明日と偽り、
 專らその用ををるる、
 日を待暮し。云ふ大い、
 味方一人も出べしと密詰る。

盛綱入道半配を定む鳥坂の城を抜

盛綱入る敵の亦行不審也。度且ともいふも、
 陳外へ出小を、
 忽ち之を徹する、
 日より敵の亦為、
 某密に敵城の根子を伺ひ、
 糧を炊と、
 能考ある、
 討せんと、
 わじめんが、
 慇懃の、
 云意又、

宵敵機をまゑるべし。我の時を待居ることを收び勇を面々の高名
半柄今宵の中より比の勢憤を散じらば我下知又随ふべし。防
禦の分を先陳中より備を少く焚せ士卒二百斗入。亦くさる
らば陳の敵方あり。伊次五郎信光一千余人あり左に伏し浅利と市
茂遠一千余人あり右に伏し。後より佐々木益綱入道一千五百人を
具し自ら埋伏と扱又海野小太郎幸氏と盛綱子息小三郎益季
も入名一千づの兵を授け謀討をや。會鳥坂山の麓の左右に埋伏
させ。藤次四郎清光あり一千五百の兵を授け宵より密に敵の後に向
け。期は早くとお家をほし。残る三千余人遊軍とす。村上判官
仲清は後ひ敵城と本陳とある。夜結ふは伏し先づ肥さぞ。空
路は役目の持場へ出さる。陳中より叫を静め今や家と待居る城中

あり。益綱法師謀討をまゑる。候をうせしをさひゆり今宵とある
手を微塵不せんと勇を収む。宵より兵糧の支度あり。丑の刻より比進
兵とお定め。廿一日の夜より月も明るく。夜討は小勢なり。進退
自由あり。働きをう。易に敵陳に討入るも隨を控く。上へ。ゆ
頼をぬく。同士の討をぬく。評定あり。資益が郎木新来の浪人武者
助より軍千五百余人をぬく。夜討せぬ。資益と坂額女と。城中に
止り。夜も既にして。密に敵陳の根子を伺ひ。不隨を怠り。乃
許る。告ぐ。仕候と。一千五百の軍勢城中を出し
満る。比より。陳に至り。い。あ。由。能。入。と。さ。く。舟。の。出。も
満る。い。時。分。は。い。打。入。と。云。夜。を。め。二。周。は。陳。中。へ。喚。く。強。入
る。静。り。初。め。音。を。せ。ね。ば。さ。く。森。入。り。老。ど。も。う。る。と。陳。中。へ。入。る。と

星月夜力編卷之五



星月夜力編卷之五

佐々木盛綱
入道城中の
計策也
密

それども出逢りのるるしう。えうのくは退れ出る所。左右より山由窟
 うご。鯨波の声を發し。二千の伏兵一時に發り主敵の前途を
 塞入由余らと討えと叫りしう。夜討の軍驚き發るんぞんん
 切れ用をえんと。膽を破り戦ふ勇勢由のぶらそ。のれれてま
 遠より。開の声を起し。盛綱法師一千五百余人切け出で敵兵の尻を
 ぶ。散り討まらるるぞ。城兵ゆり途を失ひ。三方を開き逃るる
 せうるに。餘り出ひ切らざるより。覺悟由必業由出がらそ。討死せんも打
 忘是唯逃まんと狼唄する。赤手の不さを討んと多し。軍却て敵は
 不さを討し。今の城兵亦夜討に出合するぞ。乱まき逃れを三
 方より取巻く餘りと攻多し。城兵多く討死し。余を助るもの一
 人もなく。あも我死の老の僅あは皆く周章迷ひ。せうくと討つもの

妻より。時は一人の士卒。鳥坂の城門に至り。味方夜討を悉くおぼ
 敵は十部の用をえり。各敵の大軍は取らるる。塵をふるん。早
 救ひぬくと注進を乞則海野小太郎。華氏も是を示す。城中は残り
 老ども。資盛坂額女を初免とす。矢余より。遙か見らるる。
 今戦ひ真実中と覺ゆ。黒煙天は覆ひぬ。あ方の鯨波の声。山よ
 響く。はね。坂額女は悔限りる。あうのうんと。思ひ。うた。熱士
 の。足。法。か。ゆ。若。中。と。謀。く。向。ハ。セ。る。敵。の。用。を。意。り。る。敗。亡。と。川。出
 不便るれ。我地。向。ひ。一。人。あ。う。と。も。救。ひ。ぬ。る。下。に。守。り。ハ。城。を。守。り
 ぬ。と。資。盛。は。中。合。め。坂。額。女。例。の。ま。打。撃。あ。う。十四。東。の。大。矢。を。發
 ぬ。と。負。女。は。似。合。ぬ。強。弓。四。人。張。を。携。へ。長。刀。を。節。ホ。と。持。せ。三。百

余入を川率一風掃く程に。あつひの陣へ馳移り小太即貨盛
 の益益の夜討をせし。あつひの陣へ馳移り小太即貨盛
 大郎幸氏佐々木小三郎盛季城の左右より二平の伏兵を起し開乃
 声を發し。混と押寄海野の先登をせし。幾真先子進む如く
 佐々木盛季も一番は責入んと欲し海野が先へ進をせし。追抜を
 せし。大郎幸氏もはびく馳移り。つとまきり至り幸氏が馬の口を元
 辨は跡へ入房もあつひ幸氏も怒り。何者なれば我先陣を妨ふと持
 たり弓あつひ大郎幸氏も怒り。何者なれば我先陣を妨ふと持
 此間佐々木盛季並拔く。城辺に到り。討手の大郎幸氏源氏乃
 婿流佐々木も兵清辰盛綱入道が息男佐々木小三郎盛季
 當城の魁先とあつひ。弓え直一城中へ一箭射ひ。城兵亦

大郎幸氏もはびく馳移り。つとまきり至り幸氏が馬の口を元
 辨は跡へ入房もあつひ幸氏も怒り。何者なれば我先陣を妨ふと持
 たり弓あつひ大郎幸氏も怒り。何者なれば我先陣を妨ふと持
 此間佐々木盛季並拔く。城辺に到り。討手の大郎幸氏源氏乃
 婿流佐々木も兵清辰盛綱入道が息男佐々木小三郎盛季
 當城の魁先とあつひ。弓え直一城中へ一箭射ひ。城兵亦
 大郎幸氏もはびく馳移り。つとまきり至り幸氏が馬の口を元
 辨は跡へ入房もあつひ幸氏も怒り。何者なれば我先陣を妨ふと持
 たり弓あつひ大郎幸氏も怒り。何者なれば我先陣を妨ふと持
 此間佐々木盛季並拔く。城辺に到り。討手の大郎幸氏源氏乃
 婿流佐々木も兵清辰盛綱入道が息男佐々木小三郎盛季
 當城の魁先とあつひ。弓え直一城中へ一箭射ひ。城兵亦

あり。殊更軍勢三夜討は出残る軍さかり一千斗皆大平のあ
手を防ぎ搦手の守兵さるり衣森沢が軍勢竹の苦由るく城中へ
攻入後より其の声を傾り惣々且つ小古郎資盛大に愕き叔母
の帰来らんや七の命限り防んとさひし由今に秘斗ぞもく。家の子
郎從中七周章あめく斗さる。大子の兵亦け辭を足く。叔を搦
手破其さるぞ。此方より由繁入て勇進んと。討まふ由突と由り
と由せと。サ辭又城をす執るを味兵亦搦子の破其臆し防ご
ゆと佐々木盛季烈しく下知く。四方八面より切く弓矢放兵今ん
を迫るると我先は自書し。或の款は向く討死さるゆゆ。前後より攻ま
ら且竹のぬりきりさる。その上坂額女打出さるゆゆ。搦を由益る。我
あふれ追く自在に強入強く大に狀果さる。大に資盛由叶りぬ

所敵の手は熟へる速又自害せんと討残され百人の身りを前後
あま矢を射させ先祖相傳の刀さく腹を切んと。腰を探さるゆゆ。し
竹はさ忘るるんと。日か居るに切りをすめられども見えど。その向
ふも亦敵兵近身さるゆゆ。資盛刀をさるゆゆ。見添さる技極
切り死らる。糸布亦收措く俱に死さ資盛が失ひ刀の叙又永
茂が起り渡せ。城の家代々の重宝あり。曩祖出羽攻殺茂がや
干より授り受り名刀ゆりし。永茂の是を離するゆゆ。さ由法勇の
力さるゆゆ。小山が一言は欺きとく。必さあゆるゆゆ。さかひるも芳野よ
入刺鬚の安とさるゆゆ。嘗くと滅亡し今小古郎資盛由死せんと
さるゆゆ。臨り失せらん人間の正業よゆ。滅亡の時節到れさる
死。その後此名劍永く世に出で正しく野千の手に取戻さるゆゆ。

三月交力勅命入
一十五

らん既ニ當城ヲ取ルノ要害ヲシテ兵糧ヲ乏ク武備ヲ沢山ニ用テ
必死三千人の勇兵揃えられ申す一年ハ終城由とて。あ手由
中ニ損亡多クせんは夜討を仕損下る。聊の失計とす。大乃自害即
亦一人も残らざり討死し一時又落城と及びたり。

美達坂額女をヲ賜給合静鑑

却説あ手ノ陣へ夜討せし城兵亦三方を圍且血残とれ亦歩を
能りど大軍討れたる如く坂額女三百余人を引率し攘よらんが跡
てその間近くるれが上より弓矢打あひ稲麻のどく取をる敵兵の後
より切と放つ又忽ち武者二人を討殺ししうを殺とてをへ桂
小討る程よ敵十四五騎眼下より討殺し。その後弓を止長刀追えり
の中へ喚と入る。左より右より尚多敵事一切とす。あ手の兵完前の矢

小敷島に忍び中を突見顧る小月光明くるるを又見給やうと。例の
女武者よりと騒がれ乱とて敗走とをせよ依り坂額女ハ難あり討
残されの味方を救ふといふも。三百人ありはる。皆死してとす。
歎息し多し。此勢を合せしゆんとさる如く。浅利と市美達女武
者とゆへる。恨び勇と追えり。先日欺し一舞憤只今謝しやさん。
是ハ甲斐國住人新羅三郎美光の後胤武田冠者清光が末子浅
利と市美達と返しく勝負あれと叫びしうが坂額女ハ早くぬ入ると
急げども心やど便るも射殺し退んと弓は矢を架し振返り返答
あやむのど切く突つ。美達能由用せしうが法音をせしうの鞍壺
既を伏しる如く。け矢を改を擲り射殺し。坂額女ハ射損とるや
馬を地より退く。美達行ふやと追う。坂額女死る



肉二の矢を毒ひ再び復をさす由り一又身を背返しかば百発百
 中の半練空、一、我速布口の箭先を免ひ陰陽和合の氣さ。
 自らとらよ死しぬのう。坂額女今の懐急弓投擲長刀さす川返
 と我速を不んす。ち刀真甲は切ぎ打つめり。人支もせんま討斗
 我ひが我速つあゆして長刀打落し狙んと秘術を号し何れど由。
 獅の透るるしりふ。坂額女半練を孟感し精神を励し我れ
 如く坂額女が從軍近きるあひの大軍ゆりの間ありしを本城を
 攻るそ甚急する。早く引退しぬと告ぐるあむ。さうりの別女大に驚也。
 後詰せんと浅利を打擲る生を。我速ゆりて機又さす。道さぬと
 追ひはる。時己は夜由明くめりの文ささぬる。坂額女策を當
 ち。我れしにかかり城辺近くするす。向を急度見る。城外あり軍勢

一人もる。櫓の上よ又別ぬ族ど中。建するよとけり。公怪しと近付され
 が矢余の上よ兵士影と出らよ。逆賊の余おるる。當城ハ疾ふ
 取賊お資益を先師亦悉く討ふ。早く罪は伏せよと詔りり
 なる。坂額女よと作天力を。あむは早く落城せし行り
 ぞや。昨日まで百万騎の軍勢を。さす。十日廿日は容易に
 ありしと。三時。城ハ落され一統崩れ討つ。狂
 武運は。その。我一人存命す。行せん。自害
 せん。と。浅利。追ふ。是非。勝負を。打つ。お
 額女。執心。深く。追ひ。ぬ。一族。を。亡び。自害。せんと。お。眞
 途。の。る。頼。んと。涙。を。押。拭。く。支。向。へ。我。速。ゆ。ち。刀。を。振。り。渡。合。今
 度。ら。彼。を。生。捕。る。彼。は。討。つ。る。勝。敗。する。退。く。わ。と。お。誓。言。し。残。り。城

の擗より味方の銃士見物しく在る内は藤沢四郎清親の先日彼を
 郎亦を討てその上茂達と争論し互に生捕んと約せしむるは今賊
 外あり女と茂達戦をえり清親もひたり彼女武者勇猛といひ先刻
 より戦ひ勝て味方滅亡は免後にも茂達又討てたるは彼一人は手柄
 させんといひ侮執を生し矢急より弓矢打つるは標的を定め切て發し
 射撃す双の藤沢清親の移り養由基が百中の手煉めりければ眼は
 過と坂額女が腹を射貫たり。大丈夫の女も争うたす之を真顛倒し
 落るは茂達大に驚れ即死す及び一りと周章するはつるは飛下り
 味方の見る中なるれば透さど押し搦片手は矢を抜疾口紙よるとすれ
 双抱ゆぐ生捕り今も残兵由竹を頼中ん或は逃亡し或は自殺し
 賊徒悉く亡びるは盛綱入道味方の銃軍を集先務候を執りし

城中に入らる兵糧矢はねその外武器類は用定めては盛綱銃士は
 向ひをえり此は用定めて必死の士卒三千余人要害は双の當城
 は銃は容易攻取れば打出と城をとり防戦のとせが當年中
 は盛綱とて天罰通ゆ一時は落去せ全く我斗畧めりては
 ねの勇敵もゆるす自得の滅亡とすべし士者者の思ふは天道
 ことすは銃士実めと感歎たり初生捕討死銃士の戦勞を委し死
 後金へ注進し銃士追々帰陣せしむ坂額女の資盜が叔母始終の
 下知るせし張本なるは後金へ上りては深手負ふれば疾平愈やと
 残し藤沢の夫を討つ茂達を生捕れば兩人彼女を討つ双抱を
 平愈のうらみ連ふれよと見え果るは盛綱入道の後金へし拂
 ひ銃將ゆけひり取る此時後金も城小を而資盜堅城は銃り

近國の武士毎度の敗軍とのれば、蓋彌入道を向ふまゝ、後由その左右
 るに中ハ、幾論巷説終まると静まらば、諸人更ニ安んぜざるの如し。
 六月四日の朝、然後の國より飛捕多ふと、城小太郎資盛并一族
 即亦悉く亡び、彼國平定のごう。蓋彌入道が住進のり、合戦の次、
 を死し、その君を始め、諸臣方は安堵のよしを言ふ。此旨早速、後會
 中へ觸示さるゝ、物證し、自ら静謐と行ふ。蓋彌、然亦た及ぶ
 一軍の松子坂額女が働か、不々々、其城の工を直ぐやするれば、
 羽林家は感少からず、蓋彌が武畧を稱譽するのみ、且小三郎盛季、
 疾を養ひ、その保表大切のよしを言ふ。平愈、次方、肥近と、其旨令せ
 らま、その外、諸士の功を稱し、も、老老臣由、蓋彌、技群の軍配と感
 歎のり。老後の眉目を、其、同、北八日、藤沢四郎、清親、坂額女を

百連系、若くは、浅利、美達、の所存あり、同道せむ、藤沢、一、見、系
 多、多、羽林家、彼、別、勇、を、け、り、兵、出、し、と、作、依、り、清、親、則
 前、侍、所、の、和、田、左、衛、尉、美、盛、畠、山、次、郎、重、忠、比、企、左、門
 尉、隼、員、三、浦、平、六、兵、衛、尉、美、村、小、山、左、衛、尉、朝、政、の、軍、歴、
 歴、相、結、君、の、側、の、北、条、遠、江、守、時、政、同、相、模、守、美、時、大、江、大、孫
 ち、夫、廣、元、林、を、改、其、外、若、信、俊、若、亦、同、族、在、後、會、の、諸、士、
 扱、せ、と、群、系、を、其、藤、沢、の、女、を、け、り、出、し、目、を、降、く、を、
 見る、坂、額、女、因、入、る、れ、ど、由、女、性、と、い、ひ、痴、全、く、愈、ざ、れ、が、惻、隱、を、
 の、高、く、捲、上、げ、化、粧、を、施、し、り、既、に、諸、臣、列、座、の、中、に、通、り、簾、下、に、伺
 公、と、その、間、柳、由、階、入、り、氣、ま、く、凡、勇、力、の、丈、夫、と、比、ぶ、る、と、和、
 田、畠、山、が、族、女、の、美、動、を、感、ず、る、時、羽、林、家、簾、中、より、御、覽

坂頼女浅利
美達子嫁昏



美人能傾

國醜婦還固

家與奔愛楊

不嶮貴妃蜀道

平鹽不如立與

輝子初嫁朝



あつふ。故よその骨柄壯士のどくむ希有の女性なりと宣ひその俣孫
 次は影りもあつ相具し退去とそは罪名の沙汰あり。女が疵平
 愈の上配流せよまんとあつたるおろく。浅利と市甲斐國より来上り
 不勞あつて逐系の旨相以其後坂額女が振子をばは配流は
 定り。半疵平愈をおろつとのまられば。美達女房達を必くや上る
 我後國の囚人坂額女を流刑に処せよと。兼行具之配流乃
 必る事。希くは美達中影りくと。羽林作は女なりとも。彼は女
 の朝敵なり。そそや糸所存のつとのる事と有るは。ハル共は。美
 あり所存のど影り下さるおろく。唯同士の契約をす。仕力の男
 子を生ぜりぬ。朝廷の獲武家の杖翼るじめんが為くと。や上り。は
 羽林家。笑せぬ。ひと。市を召出さん。坂額が面貌。美なりと。さとも。云ら

猛死をせり。唯う。念めよん。中。て。兎や。醜顔。至極の女。ろく。地。子。中。
 糸。既。人。間。の。好。所。よ。の。火。頭。風。流。の。懸。子。なり。と。頻。々。笑。せ。ぬ。ひ。
 を。美。遠。少。も。恥。む。君。申。の。ぞ。彼。女。醜。面。る。ゆ。へ。忠。念。す。と。以。と。も。
 美女を好む。國家を失ふ。増え。る。仁。徳。よ。由。外。面。如。善。薩。内。
 之。如。夜。叉。と。號。す。彼。面。は。夜。叉。の。形。を。取。と。又。煩。悩。の。迷。る。是。國。家
 の。守。と。な。る。而。も。り。洪。國。の。産。物。取。の。を。さ。げ。れ。ど。も。土。光。の。ろ。く。た。と。な
 又。ろ。く。生。む。然。人。さ。その。是。る。る。を。賞。罰。を。彼。が。胎。中。より。生。む。る。男。子。に。
 必。君。の。賞。罰。を。預。る。べ。き。の。と。存。然。是。を。信。之。と。信。り。ろ。く。や。上。る。ハ。頼。家
 卿。ハ。生。む。る。情。を。好。む。ゆ。ゆ。浅。利。か。や。糸。良。女。を。遣。し。國。家。を。失。ふ
 の。一。言。讒。を。文。へ。疎。を。さ。る。程。よ。や。え。り。ゆ。ゆ。あ。や。碍。々。甚。不。與。の。血。氣。を
 み。く。その。後。行。の。作。も。ろ。く。入。と。せ。ぬ。ひ。と。が。美。遠。大。は。愕。然。廣。元。朝。臣。よ。針。て

女を亦予の別の子細にあらん。混中上へ老臣評定は任せて
 命せらるる。茂盛重忠能員朝政會議を重忠の先を
 振る存を言んと頼る。茂遠入本れば。男囚人を禁する。頼を
 君辺に上し。通を速勲功とす。あつた。此度の合戦は某御
 戮勞を以て。其賞又宛らば。頼は。且先例は。任せは。披露
 つづくと。茂盛早くその事を察し。先例とす。茂盛先
 る。ある。あつた。勇士の志。先例とす。茂盛先
 年木曾殿の妻巴女を生捕。軍功の賞又。す。茂盛先
 の。夫。比。罪。人。も。勇。敢。を。生。捕。の
 所念。於。彼。女。死。を。宥。且。配。流。の。事。は。頼。は。生。捕。の
 あつた。頼。は。謀。反。人。の。余。罪。を。名。交。る。如。亦。予。は。免

それんと。政道の修め。又茂遠賞は。智の願も。止。つづれば。
 一旦の配流せられ。後日序を。思免の。依。頼。は。甲
 斐國を配流と。茂遠の守。頼。は。賞。罰。を。明。ら
 る。と。老臣。此。由。同。る。浅利。茂。盛
 殿の。斗。ひ。感。入。其。某。戦。場。又。出。合。ら。何。卒。彼。を。生。捕。ら。ん。と
 志。度。往。向。と。由。本。を。送。る。如。は。落。城。の。日。至。て。某。が
 へ。頼。は。此。上。軍。へ。頼。を。下。し。退。歩。を。夫。ら。老。臣。披露
 され。頼。は。斗。ひ。を。作。り。依。坂。頼。女。甲。州。へ。流。刑。は。處
 せ。れ。内。院。少。の。茂。遠。が。方。へ。嫁。入。の。意。を。茂。遠。守。護。人。と。し。て。
 直。又。頼。の。伴。人。甲。下。向。り。收。抱。し。病。平。愈。の。後。借。老。の。語。に
 せ。が。行。る。思。免。の。沙。汰。を。終。り。妻。女。と。定。め。り。此。を。戮。功。と。す。

盛綱入道增地を賜ふ。その外、法士へ由夫々又恩賞を賜ふ。各面目を
施す。天下太平あり。多民戸あり。遺る。

皇月夜頭晦録初編卷之五畢

和漢 書 籍 賣 捌 處
西洋

大阪心齋橋博労町角

群玉堂河内屋 岡田茂兵衛

